

2024年
8月1日
第485号



JR東海労

<http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/>



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

J R 東海労働組合

発行人 淵上 利和

編集人 高山 浩

統制委員会設置反対！津崎裁判を全地本から闘う！ 全地本定期大会で意思統一



新幹線地本は6月23日、第31回定期大会を開催しました。

伊藤委員長は、挨拶で「JR総連の統制委員会設置は、虚偽の報告に基づくもの。本部は『JR総連連絡』に回答している。JR総連は話し合いに応じると言ったにもかかわらず、一転して拒否した。制裁を出させない。小林さん、渡辺さんが津崎議長を提訴した。レッテルを貼られた仲間の気持ちと思うと、ふざけるなど言いたい。2人と連帯して闘う。JS労結成に学び、関連会社での組織拡大の闘いを進めよう。OB会小黒さん、南波さんに対し、本部見解が出された。組織混乱を

各地本は6月下旬から7月上旬にかけて、定期大会を開催しました。全地本において、東海の地に労働運動の灯を消さないための意思統一をし、JR総連の統制委員会に反対し、津崎裁判を闘うための特別決議(案)を採択しました。

また、名古屋地本では新委員長に松山さんを選出するなど、闘う体制を強化しました。

新幹線地本第31回定期大会

招くので傍聴を遠慮してもらった。論議を継続していく。ウクライナ・パレスチナ戦争反対の声を上げていこう。分会から班へ組織体制を変更した。組織拡大に全力を」と訴えました。

来賓挨拶では、本部淵上委員長、静岡地本山本書記長、名古屋地本御辺書記長、新幹線関西地本渡邊副委員長、地本OB会尾崎会長、JS労西副委員長から受けました。

質疑では、全代議員より統制委員会設置に反対し、JR総連の対応を指摘しました。また「怪文書の拡散は許さない」「JR総連はどこに向かうのか、制裁に何のメリットがあるのか。未来は我々が決める。津崎裁判に勝利しよう」「出向先会社との団交で問題が改善された。賃金未払い・過払いは発生している」「JR総連は変わった。JR東海労を目の敵にしているがほかにやることがある。JR東労組のために闘ってほしい」「話し合いをしない、真実を言えない問題になるのはおかしい。淵上委員長を支持す

る」「先入観で判断するのは良くない。自分も当初は疑問もっていたが関西のホームページを読んだ。JR総連との議論、関西、JS労と議論して共に闘うべき」などの発言がされました。

土川副委員長は、総括

静岡地本第35回定期大会

静岡地本は7月8日、第35回定期大会を開催しました。

半場委員長は、挨拶で「リニアの2027年開業はできなくなった。裁判で闘っている仲間に連帯してきた。これからの連帯していく。『袴田巖さんの早期完全無罪を勝ち取る10・29集会』を成功させてきた。無罪判決

が出た後も、冤罪で苦しんでいる人々と連帯していく。JR総連で統制委員会が設置された。何が真実なのかを明らかにし、認識の違いを克服していこう」と訴えました。

来賓挨拶では、本部淵上委員長、JS労高木副委員長、新幹線関西地本三田副委員長、地本OB会此田会長、「浜松 袴田巖さんを救う市民の会」渥美代表、静岡県9条連増田共同代表から受けました。

質疑では、「JS労結成は、組織展望を具体的に切り拓いたものである。社民党の方が『組織拡大は素晴らしい』と絶賛した。しかし、JR総連は嘘の上塗り。統制委員会を設置した。許さない。社会貢献、助け合いをするのが労働組合の使

命ではないのか」「二重加盟は納得できない」「多くのOBの方も含め、職場討議資料や新聞などを熟読してほしい。二重加盟についても内容を記載してある」「315系ワシマン化、サービスシステム(駅無人化)については、会社に入社して行う」などの発言がされました。また、「二重加盟は納得できない」との発言に対し、JS労柳楽委員長が、関西新幹線サービックにおける雇用実態や会社の動向などについて、丁寧に経過や考え方などを説明しました。



山本書記長は、総括答弁で「本部が発行した職場討議資料が全ての真実である。JR総連の職場討議資料は、畑野代議員の統制委員会設置の反対発言を意図的に掲載していない。都合良く編集され、討議に値しない。OBとの対話を2回行ったが、理解を深めるため引き続き行いたい。JR総連山口委員長と柳副委員長は、2029年にはいなくなる。責任を取る人がいなくなる。袴田さんの判決が9月26日に出されるが、最大限結集しよう」と訴えました。

役員改選では、副委員長に植松さん、木下さんが就任しました。また、第1回執行委員会、特別執行委員会に渥美弘さんを指定しました。

名古屋地本第34回定期大会

名古屋地本は6月30日、牧野コミュニケーションセンターで第34回定期大会を開催しました。開会に先立ち、今年5月に亡くなられた松枝祐治さんのご冥福をお祈りし黙祷を捧げました。

荻野委員長は、挨拶で「組織拡大を否定するJR総連の統制委員会は認められない。JR東海労に加入したCMCの山下さんと共に、関連会社の労働条件改善を求め、広範に組織拡大を目指す。今なお続くウクライナ戦争、イスラエルによるパレスチナへの無差別攻撃などに反対し、情勢不安を煽り、軍事大国を目指す岸田政権を許さず、反戦・平和を守るために闘う。業務改革という効率化・労働強化に反対する。経営破綻と環境破壊へと突き進むリニア建設に反対する。組合員の利益を守るために、名古屋地本の更なる前進と闘いを創造しよう」と訴えま

益を守るために、名古屋地本の更なる前進と闘いを創造しよう」と訴えま

来賓挨拶では、本部淵上委員長、新幹線関西地本下茂副委員長、JS労前田書記長、地本OB会今井会長から受けまし

質疑では、JR本体、出向先、関連会社における職場での問題や闘いの報告が出されました。

御辺書記長は、総括答弁で「組織拡大を否定するJR総連の統制委員会

新幹線関西地本第30回定期大会

新幹線関西地本は7月7日、第30回定期大会を開催しました。

笹田委員長は、挨拶で「JR総連より『7月12日に統制委員会を開催する。弁明の機会を与える』と呼び出しの通知があった。そもそも、私たちが求めていたのは、統制委員会での弁明の機会ではなく、JR総連、JR東海労本部、新幹線関西地本の三者で議論する場である。問題を解決するためには、三者協議を行うべき。JR総連の姿勢は、問題を解決する気がない。制裁ありきの姿勢だといえる。JR総連近畿地協定期委員会を巡る組織破壊攻撃と組織破壊者のデッチ上げの発端は、津崎報告書である。



津崎報告書を糾すことで解決へ繋がると考えている。事実経過を明らかにするために、津崎裁判に立ち上がった渡邊副委員長と小林書記次長と共に闘っていく。この間、OB会員の方から色々な文書・書面が出された。地本はOB会の方と話をするために再三連絡を行ったが、無視し一方的に文書を郵送してきた。大変迷惑をしている。本日10時に地本事務所に来て、お話をしようという連絡をしたが、これも拒否された。労働者の権利と利益を守るために、各分会、OB会員の皆さんと共に最後まで闘っていこう」と訴えました。

来賓挨拶では、本部淵上委員長、JS労柳楽委

は認められない。社員間の競争を激化する「業務改革」「人事・賃金制度の見直し」を許さない。JR本体のみならず出向先会社との団体交渉を開催し全ての働く仲間が安心して働ける職場を目指し闘っていく」と訴えました。

特別決議として、「JR東海労への統制委員会の撤回を求める!!『津崎裁判』2名と共に闘う!!」を全会一致で採択しました。

新委員長に、前本部組織部長の松山さんが就任しました。

は認められない。社員間の競争を激化する「業務改革」「人事・賃金制度の見直し」を許さない。

津崎裁判の嘘を明らかにするため、裁判を起こした。JR総連は「同じ労働者を訴えるのか」と言うが、嘘を固め統制委員会を設置したことの方が問題だ。組織破壊者と言

い続けるJR総連を許さない。裁判に勝利するまで共に闘う」「異常時における勤務時間の問題で、降積雪による大幅な列車遅延により、11時間27分もの連続勤務で休憩時間が与えられなかった。労働基準法違反である。分会は、プロジェクト会議を開き、新たな闘いとして裁判闘争を考えている」「第35回JR総連近畿地協定期委員会の議長を務めた。この場で、JR東海労からの参加者が組織破壊攻撃を行った事実はない。無断でビラを配った事実もない。議長の私は、ビラ配布を認めた」「新幹線地本OB



員長、地本OB会工藤会長から受けました。

質疑では、「近畿地協津崎議長は、嘘を明らかにするために、裁判を起こした。JR総連は「同じ労働者を訴えるのか」と言うが、嘘を固め統制委員会を設置したことの方が問題だ。組織破壊者と言

い続けるJR総連を許さない。裁判に勝利するまで共に闘う」「異常時における勤務時間の問題で、降積雪による大幅な列車遅延により、11時間27分もの連続勤務で休憩時間が与えられなかった。労働基準法違反である。分会は、プロジェクト会議を開き、新たな闘いとして裁判闘争を考えている」「第35回JR総連近畿地協定期委員会の議長を務めた。この場で、JR東海労からの参加者が組織破壊攻撃を行った事実はない。無断でビラを配った事実もない。議長の私は、ビラ配布を認めた」「新幹線地本OB

ハラスメント撲滅を強く主張!

名古屋地本がCMCとの団交開催

名古屋地本は6月17日、セントラルメンテナン

散させることが明らかに。津崎裁判では、プロジェクトをつくりOBと共に連帯する。自分の発言には責任を持たなければならぬ。労働組合は、会社ではなく労働者のためにあるものだ。困っている人に手を差し伸べる駆け込み寺にする。それを行うのは自分たちである」と訴えました。

また、JR東海労の組合掲示板設置の要求に対して、会社は「その様な考えはない」と回答しましたが、最後に組合は「今後も現場からの要求を出していくので良い職場づくりのために議論していく」ことを伝え、団体交渉は終了しました。

27年開業断念で更なる経営危機か

リニアについて申し入れ提出!

会社は、リニア中央新幹線・品川～名古屋間の2027年の開業を正式に断念しました。リニア計画が大幅に変わることから、本部は7月31日、リニア中央新幹線の2027年開業断念に関する申し入れを行いました。

以下、項目の概略です。

- ・品川～名古屋間の開業に向けた計画について明らかにすること。
- ・品川～名古屋間の建設費7,04兆円は、計画通りなのか明らかにすること。
- ・財政投融資からの長

期借入金である中央新幹線建設資金管理信託の今後の取り崩し計画を明らかにするとともに、同管理信託を使い切った後の資金調達計画について、明らかにすること。

- ・名古屋～大阪間の建設工事についてのロードマップを明らかにすること。
- ・また、建設費について、計画通りなのか明らかにすること。
- ・米国のリニア計画、新幹線計画の進捗状況、この計画への投資額、及び費用対効果について明らかにすること。